

JOIFA OFFICE AWARD 2025

第4回
JOIFAオフィスアワード
実施報告書

2026.6.10

一般社団法人日本オフィス家具協会

■ 第4回実施概要

【開催日程】

2025年	9月1日～11月28日	応募受付
	12月	1次審査(書類選考) 21社
2026年	2月	2次審査(バーチャル審査) 12社
	3月30日	最終審査(優秀賞4社、特別賞2社選出)
	6月 2日	オルガテック東京(東京ビッグサイト)にて最優秀賞選出、表彰式開催

【審査委員 (敬称略)】

<審査委委員長>

地主 廣明 東京造形大学 名誉教授

<審査委員>(五十音順)

妹尾 大 東京科学大学工学院経営工学系 教授
豊田 健一 株式会社月刊総務 戦略総務研究所 所長
成瀬 友梨 株式会社成瀬・猪熊建築設計事務所 代表取締役
廣川 玉枝 SOMA DESIGN デザイナー
箕浦 龍一 公務部門ワークスタイル改革研究会 研究主幹
若月 貴子 クリスピー・クリーム・ドーナツ・ジャパン株式会社 代表取締役社長

■ 応募企業の規模

・資本金

1億円以下	5
10億円以下	6
100億円以下	5
100億円以上	5

■ 応募オフィス所在地

北海道	1 (北海道1)
関東	8 (東京8)
中部	3 (愛知2、福井1)
関西	4 (大阪3、兵庫1))
中四国	1 (島根1)
九州	3 (福岡3)

■ 応募オフィスの規模

・従業員数

50人未満	3
100人未満	3
300人未満	6
300人以上	8

・フロア面積

500㎡未満	2
1000㎡未満	3
3000㎡未満	7
3000㎡以上	8

【最優秀賞】 株式会社松川レピヤン



【審査員講評】

- ・「福井でいちばん大きなおうち」というコンセプトに感銘した。オフィスとは生活環境であり、働く場であると同時に生きる場であることをこの言葉は言い表していると思う。
- ・本当に「働きたいオフィス」が実現できている。まさに、コンセプト通りに「おうち」が実現されたオフィスである。
- ・オフィスは学校のようにも感じられる雰囲気。仲間と一緒に成長していける雰囲気を感じた。
- ・働く場そのものを企業の思想や文化を伝えるメディアへと昇華させている。「工場＝生産の場」という枠を超えた、新しい企業像を提示している点が印象的。
- ・共に集う場と、個を尊重する場の両立は、企業文化の成熟度を示すものといえるだろう。
- ・「働く場のデザイン」が企業の未来を形づくる重要な戦略であることを体現しており、地域性・企業理念・人への配慮を高次元で統合した優れた取り組みとして評価した。
- ・企業理念をオフィスに体現し、顧客等へのPRにも効果的に活用されている様子が伝わってきた。

【最優秀賞】 株式会社松川レピヤン

応募組織名称	株式会社松川レピヤン
URL	https://rapyarn.jp/
資本金	1,000百万円
業種	製造業
応募オフィス名称	松川レピヤン 本社オフィス
応募オフィスの従業員数	50人
使用開始年月	2022年10月
応募オフィス所在地	福井県坂井市丸岡町舛田20-5-1
建物の築年数	3年
応募オフィスの延床面積	1,599㎡
応募オフィスのフロア数	2フロア
応募オフィスの設計者	株式会社走坂建築設計事務所、株式会社イトーキ、株式会社建大工房
応募オフィスの施工者	株式会社イトーキ、株式会社建大工房

オフィスを造られた経緯・目的

福井でいちばん大きなうち

規模の小さな織物工場は、よく自宅と工場がつながっています。理由は簡単で納屋に織機を数台入れて、冬の収入源としたものでした。そのため、工場・作業場・自宅はつながっており、現場で作業して隣の自宅兼作業場で検品し、その横ではご飯を作り、子供たちが遊んでいる。これが地場産業の原風景です。新社屋では機屋としての原風景を取り込みながら、「人づくりが究極の品質づくり」を念頭に、社員にとって自慢の場所で、多様な人材を確保し、面白い会社を目指しています。



居心地のいい場所

働く環境が良く
気持ちよく過ごせる場所

会社の象徴となる

松川レピヤンのコンセプトを
社内外に伝える場所

自分らしくいられる

どんなタイプの人でも無理せずいられる
多様性を持つ場所

出会いと発見がある

外部を受け入れ、コミュニケーションが
自然と生まれる場所

育む・成長する

その場にいるだけで
気づきや学びがある場所

Before



After



【優秀賞】 リリカラ株式会社



【審査員講評】

- ・SDG s の理解度を深めるために、体験会や勉強会を開いて体感していることが、高評価。
- ・秀逸なのは、廃棄ゼロと解体を見据えた設計。有限世界である地球において、この循環型オフィスは今後の必須となるのではないだろうか。
- ・多くの人に知ってもらいたい企業姿勢である。まさに、企業ブランディングを実践している、メディアとしてのオフィスの在り方でもある。
- ・直線的・効率重視になりがちなオフィス空間の中で、曲線を効果的に取り入れることで人が自然と集い、対話が生まれる場を創出している点は好印象だった。
- ・人材への投資を空間という形で具体化した本オフィスは、社員のエンゲージメント向上や組織の活性化に寄与するポテンシャルを十分に備えていると考える。

【優秀賞】 リリカラ株式会社

応募組織等名称	リリカラ株式会社
URL	https://www.lilycolor.co.jp/ss/
資本金	3,335百万円
業種	インテリア商材メーカー
応募オフィス名称	日比谷オフィス
応募オフィスの従業員数	110人
使用開始年月	2023年10月
応募オフィスの所在地	東京都港区西新橋1-2-9 日比谷セントラルビル21階
建物築年数	41年
応募オフィスのフロア数	1フロア
応募オフィスの延床面積	977.65㎡
応募オフィスの設計者	リリカラ株式会社
応募オフィスの施工者	リリカラ株式会社

オフィスを造られた経緯・目的

企業ビジョンを実現する「いつもよりちょっと熱くなれる場所」

企業理念とMISSION

リリカラは今年で創業117年目を迎えるインテリア商材メーカー。「快適な創造空間を提案し、提案する」を企業理念に掲げ、個人の住空間を主とするインテリア事業部と企業の施設空間を主とするスペースソリューション事業部の二軸で活動を行っています。スペースソリューション事業部は「価値を創出するファシリテートの再生と、より豊かでポジティブに働ける未来社会の実現」をそのMISSIONと定め、事業活動をしています。

人財投資宣言

中期経営計画「Beyond120」では人財が当社の利益の源泉であるという考えのもと「多様な個性を持つ従業員がそれぞれの能力を最大限に発揮できる環境を整備し、人的資本への投資を積極的に行うことで、持続的な企業価値の向上を目指す」という人財投資宣言を発しました。

そしてその実現には、社員のみならず関わる全てのステークホルダーが前向きなマインドをもって業務に取り組み、生産性の向上が実現するオフィス、そしてさらには社員が誇りをもって働くことができる空間の構築が必要であると考え今回の移転となりました。



ちょっと熱くなれる場所

【コンセプト】

ここに来る社員、お客様、取引先などすべての人の気持ち上がり、ちょっと熱くなれる場所、そして個性や想いが波紋のように広がり相乗効果を生み出す場所そんな想いをこめてコンセプトを「いつもよりちょっと熱くなれる場所'+1°C」(プラスいちど)としました。

旧オフィスハード面での課題

移転前のビルは「ロの字」型の躯体形状で見通しが悪く社員同士のコミュニケーション不足が課題となっていました。そこにコロナ対策のための在宅勤務制度の導入も加わりその問題に拍車をかけているような状況でした。そのため新オフィスではひとつの空間で社員皆が働けること、が重要なキーワードとなっていました。

旧オフィスソフト面での課題

移転前の社内アンケートでは「交流の広がり」や「居心地・愛着」といった項目についての評価点が低く、その改善が必要であることがわかりました。そのため新しいオフィスでは「FaceTo Face」のコミュニケーションの実現や使い勝手が良く居心地の良いオフィス環境の構築を目指すことにしました。また誇りを持って働くことができるオフィスを目指すための取り組みとして社会課題であるサステナブルな視点を取り入れたオフィス作りにもチャレンジし、その過程も含めて社員全体のエンゲージメント向上に繋がるよう考えました。

【優秀賞】 ヤンマーホールディングス株式会社



【審査員講評】

- ・継続的なオフィス改善をしながら、働く環境だけでなく、食・運動など健康に向けての取り組み、また地域貢献も積極的に行なっており、全方位的によりよくなっていく活動が継続されている点が優れている。
- ・農業に関わる機械を提供する企業らしく、「米」にこだわった食の提供や、健康に配慮したメニュー構成は、事業内容と福利厚生を結びつける好例であり、社員にとって誇りや共感を醸成する要素になり得るもの。
- ・障害者やムスリムなどへの配慮もなされており、ダイバーシティ実現に積極的に取り組まれている姿勢も窺えた。
- ・食糧生産・環境/エネルギーを事業の中心にすえた企業らしいコンセプトとオフィスづくりをされている印象を受けた。
- ・螺旋階段（エコシリンダー）が、ごつくて視覚的にインパクトがあった。技術ドリブンな会社らしさが出ている。長い年月をかけてオフィスに向き合ってきた骨太の取り組みが高評価。

【優秀賞】 ヤンマーホールディングス株式会社

応募組織等名称	ヤンマーホールディングス株式会社
URL	https://www.yanmar.com/jp/about/company/yanmar/
資本金	90百万円
業種	各種産業用エンジンを軸とした商品の研究・開発・製造・販売
応募オフィス名称	①YANMAR FLYING-Y BUILDING／②YANMAR SYNERGY SQUARE
応募オフィスの従業員数	①750名／②450名
使用開始年月	①2023年6月／②2022年5月
応募オフィスの所在地	①大阪府大阪市北区茶屋町1-32 YANMAR FLYING-Y BUILDING ②兵庫県尼崎市常光寺1丁目1番4号 YANMAR SYNERGY SQUARE [®]
建物築年数	①11年／②6年
応募オフィスのフロア数	①12フロア／②5フロア
応募オフィスの延床面積	①10,083㎡／②5,650㎡
応募オフィスの設計者	ゲンスラー、パワープレイス株式会社、kole
応募オフィスの施工者	株式会社竹中工務店、株式会社内田洋行、ココヨ株式会社

オフィスを造られた経緯・目的

1. 企業概要

商号 ヤンマーホールディングス株式会社
本社所在地 大阪市北区茶屋町1-32
YANMAR FLYING-Y BUILDING
創業 1912年3月
※ヤンマーの前身である山岡発動機工作所創業
設立 2013年4月
資本金 9,000万円
創業者 山岡 孫吉
代表取締役社長 山岡 健人
従業員数(連結) 26,671名 (2025年3月31日現在)

事業内容

- ・アグリ事業
- ・産業用エンジン/船用エンジン事業
- ・建機事業
- ・マリンプレジャー事業
- ・エネルギーシステム事業
- ・食事業

2. オフィスの変遷

- 2011.12 旧社屋より仮オフィス移転
- 2014.12 新社屋 移転完了
- 2016 オフィス先行リニューアル
- 2019～2023 オフィスリニューアル
- 2020.08 ヤンマー・エンジニアリング(尼崎) リニューアル
- 2022.05 ヤンマー・エンジニアリング(尼崎) リニューアル
- 2024.08 食堂リニューアル

3. 本社新社屋(梅田) コンセプト

環境と防災に配慮した本社ビル
「YANMAR FLYING-Y BUILDING」
次の100年に向け出発

ヤンマー独自の最新の環境技術を導入することで、本社オフィスから排出されるCO2を大幅に削減し、将来的にはCO2排出ゼロを目指します。

また、中間免震構造をはじめとする最先端の防災設計を採用することで強固な安全性を備えたビルとして、大規模災害が発生した際のBCPの速やかな実行と、大災害時には地域への貢献を果たします。

ヤンマーは、この本社ビル建設を機に次の100年に向けて力強く出発します。

4. ヤンマー・シナジースクエア(尼崎) コンセプト

YANMAR SYNERGY SQUARE

「SERVICE × SYNERGY = SUSTAINABILITY」
— ヤンマーは、お客様と共に、未来のために。 —

全世界のヤンマーユーザーの皆様、ビジネスパートナーの皆様とヤンマーが、それぞれのノウハウを結集しシナジーを生み出せば、今までにない、新たなサービスを創り出せると信じています。ヤンマー・シナジースクエアは、皆様と未来を共創する場所です。

・食糧生産
12F社員食堂は、環境配慮米を使用した羽釜ご飯の提供や、食堂内では都市養蜂の取り組みを行うなど、ヤンマーの目指している「自然との共生」を体現しております。

・エネルギー変換
本社オフィスビルは、様々な環境テクノロジーや商品により、排出されるCO2の大幅な削減を可能にしました。さらに壁面緑化や自然エネルギーの活用を行い、将来的にはCO2排出量ゼロを目指します。

【優秀賞】 株式会社メニコン



【審査員講評】

- ・「五感を刺激するオフィス」「スマートクリエイションの9つの活動」等、興味深いコンセプト、キーワードがあり好感が持てる。
- ・フロアコンセプトが明確なので、社員は迷わずABWを実践できるオフィスとなっている。
- ・しっかりとデータがとれているので、様々な掛け合わせでオフィスを改善してほしい。
- ・インテリアも従来のオフィスらしさにとらわれず、住まいのようなリラックス感を備えており、働く人の心理的な快適性にも配慮されている点に好感が持てる。
- ・企業活動と地域社会をつなぐ新しいオフィスのあり方を示す事例として高く評価したい。
- ・環境を整えるだけでなく、その環境をどのように活用するかについて、社員の方々が運用ルールを作成されている点も、優れたアプローチだと思う。
- ・地域文化振興活動のサポートや環境への配慮も素晴らしいと思った。

【優秀賞】 株式会社メニコン

応募組織等名称	株式会社メニコン
URL	https://www.menicon.co.jp/
資本金	5,535百万円
業種	コンタクトレンズ・レンズケア事業他
応募オフィス名称	メニコンシアター Aoiビル
応募オフィスの従業員数	220人
使用開始年月	2023年4月
応募オフィスの所在地	愛知県名古屋市中区葵三丁目21番19号
建物築年数	3年
応募オフィスのフロア数	5フロア/9階
応募オフィスの延床面積	3,006.43㎡
応募オフィスの設計者	大成建設株式会社、株式会社イトーキ、株式会社オリバー
応募オフィスの施工者	大成建設株式会社、株式会社イトーキ、株式会社オリバー

オフィスを造られた経緯・目的

プロジェクトコンセプト 「五感を刺激するオフィス」

Vision2030のスローガンをメニコンシアターAoiビルでは建築全体を通し体感することができるよう計画されています。これまでのオフィスでは、視覚と聴覚を中心としたオフィスづくりが行われてきました。そこに、嗅覚、触覚、味覚を取り入れ、社員が生き生きと働くことのできる環境、活動を以下の取組みを通して実現しています。

フロア毎に特徴のある トラベル型ウェルネスオフィス

- ・積層するオフィスの中で、自分の居場所を認識しやすいデザイン【視覚的效果】
- ・フロアを移動することが楽しく感じる仕掛け【触覚的效果】

「五感を刺激し」快適に働ける環境整備

- ・快適な働き方（活動）をサポートする様々な仕掛け
- ・音環境の構築【聴覚的效果】、熱環境の構築【触覚的效果】
- ・サーカディアンリズムの構築【視覚的效果】
- ・バイオフィリック【視覚的效果】
- ・リフレッシュ効果の高い香りの導入【嗅覚的效果】 など

スマートクリエイションを実現する 「9つの活動」

- ・メリハリのある働き方の実現
- ・活動を支援する様々な取組み（リアルとICTの活用）

Before



構成：組織ごとにフロア分け
働き方：フリーアドレス・固定席の併用
環境：自然光を取り入れた環境

After



構成：トラベル型ウェルネスオフィス
働き方：自席を持たない主体的な働き方（ABW）
環境：五感を刺激する環境

【特別賞】 株式会社ペンシル



【審査員講評】

- プロパーなオフィスデザイナーでない方が入られている点も、むしろ新しさを生む要因になっていると思う。自分たちが楽しいと思うカタチを自ら紡ぐ姿勢は、重ね重ね評価できる。
- 地元福岡への強い愛着が地域創生の萌芽となりうる社会性の高いオフィス。
- オフィスコンセプトであるセレンディピティが、ある意味強制的に行われるようなオフィスだ。入社するたびに新たな発見がある、おもちゃ箱をひっくり返したような楽しいオフィスである。企業理念の「ビジネスを革新する」には、カオスの中からの気づきが重要だ、そのようなメッセージが込められている。同社の「らしさ」を思う存分体现できるオフィスとなっている。
- 社員の皆さんのクリエイティビティを發揮させる仕掛けに満ちていると思う。
- オフィス移転プロジェクトに当たって、代表自らがプロジェクトチームを指揮された取り組み姿勢も高評価。

【特別賞】 株式会社ペンシル

応募組織等名称	株式会社ペンシル
URL	https://www.pencil.co.jp/
資本金	50百万円
業種	情報通信業（ウェブコンサルティング）
応募オフィス名称	ペンシル福岡オフィス
応募オフィスの従業員数	140人
使用開始年月	2021年12月
応募オフィスの所在地	福岡県福岡市中央区天神1丁目10-20天神ビジネスセンター15F
建物築年数	4年
応募オフィスのフロア数	1フロア
応募オフィスの延床面積	637㎡
応募オフィスの設計者	株式会社アドアルファ/株式会社ペンシル
応募オフィスの施工者	株式会社アドアルファ/株式会社ペンシル

オフィスを造られた経緯・目的

オフィスを造った経緯・目的

当社は1995年創業、ウェブ戦略でクライアントの売上をあげる研究開発型のウェブコンサルティング会社です。2020年、5年後の創立30周年（2025年）を終着点とするDX経営をテーマとした経営計画プロジェクト「Road to2025」を掲げ、その重要テーマの一つに本社移転とオフィス環境の整備を位置づけました。

具体的には2021年12月の本社移転を「インターネットの力で世界のビジネスを革新する」という企業理念を実現する機会の一つとし、多様な人材が多様な働き方で活躍するダイバーシティ経営を推進する組織において、社員一人ひとりが最大限のパフォーマンスを発揮できる環境を整備し、個人の力を組織の力へ変え、クライアントや社会に対する新たな価値創造に活かしていくことを目的としました。

移転当時はコロナ禍における在宅勤務やワークスタイルの多様化を受け、身体的な安全性や快適性、また心理的安全性が確保され、社員が自身のモチベーションや生産性の上がる効率のよい働き方を主体的に実行できる環境整備が必要でした。さらに、コンサルティングサービスを提供する当社では、「人」こそが事業の根幹であり最大の資源であるため、社員それぞれが五感の全てを活用し、一人ひとりの成長を促すことこそが会社の成長にもつながると考え、

「人が成長できるオフィス」をテーマにオフィスづくりを推進していきました。

- ・社員が一同に働けるワークスペース
- ・さまざまな知恵を出し合える「成長できるオフィス」
- ・ペンシルというコミュニティを形成し、コミュニティの進化が組織の進化、社会の進化へとつながっていくように



Before



After

【特別賞】 エドワーズライフサイエンス株式会社



【審査員講評】

- ・オフィスを使い積極的に外部のステークホルダーとのハブ活動をしているのは、オフィスコンセプトであり、企業の理念の実現でもある。
- ・単なる福利厚生的な設備ではなく、「人の健康に向き合う企業」としての姿勢を体現する空間的メッセージとなっており、事業内容との整合性という点で高く評価できるポイントだ。
- ・オフィスを単なる執務空間として閉じるのではなく、学びや技術共有のハブとして機能させている点は、企業の社会的役割を拡張する取り組みといえる。総じて、本オフィスは「働く場」の枠を超え、企業理念や事業領域、そして人へのまなざしを空間として具体化した好事例であると感じた。今後のさらなる発展にも期待したい。
- ・出社前提で長年職場環境を重視されてきただけに、現代社会の多様な働き方に適合した多様なオフィスの要素と、コミュニケーションの取りやすい什器の選定など、効果的な取組が見られた。

【特別賞】 エドワーズライフサイエンス株式会社

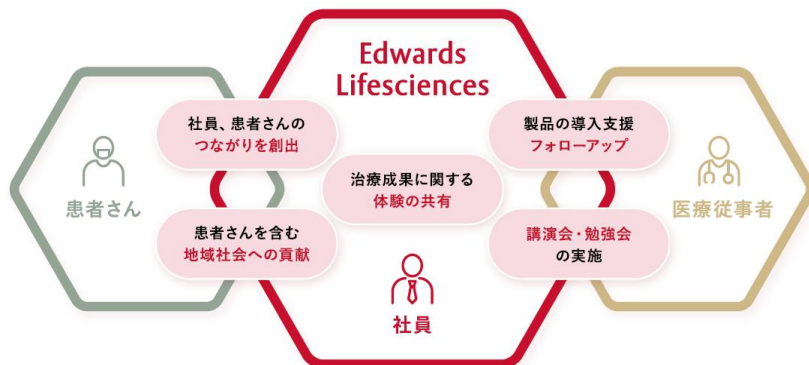
応募組織等名称	エドワーズライフサイエンス合同会社
URL	https://www.edwards.com/jp
資本金	1,132百万円
業種	医療機器の輸入販売
応募オフィス名称	エドワーズライフサイエンス本社オフィス
応募オフィスの従業員数	約300人
使用開始年月	2024年2月
応募オフィスの所在地	東京都新宿区北新宿二丁目21番1号 新宿フロントタワー
建物築年数	14年
応募オフィスのフロア数	3フロア
応募オフィスの延床面積	5,135㎡
応募オフィスの設計者	ゲンスラー・アンド・アソシエイツ・インターナショナル・リミテッド
応募オフィスの施工者	株式会社ザック、株式会社オリバー

オフィスを造られた経緯・目的

PATIENT INNOVATION HUB with Wellness

社員・患者さん・医療従事者が、同じ目的でつながる場所

患者さん中心のイノベーションを通じて、より健やかな生活と医療の発展に貢献する



with Wellness

働く人のウェルビーイングを支え、パフォーマンス向上につなげる

新オフィス設計で重視した視点

- 社会とつながる「開かれた場」の創出
- コロナ禍を経て、新しい働き方の中でのつながりと協働の促進
- 柔軟で風通しのよいオフィス空間への進化
- エドワーズの理念が直感的に伝わるデザイン

